

介護老人保健施設しおん

症 例 概 要 ご利用者 70歳代 男性 （要介護3）

利用期間 ：入所リハビリ2024年10月～通所リハビリ2024年12月～訪問リハビリ
2025年3月（通所併用）～現在

現病：髄膜炎（R6.3）、白内障、尿管結石症、前立腺肥大

既往歴：糖尿病、高血圧症

経過：2024年3月、自宅にて頭痛があり救急搬送。带状疱疹の菌が頭に入り、髄膜炎と診断される。7月、リハビリ目的で斎藤病院へ転院となるが、コロナ感染や尿路感染となり、ベッド上での生活がほとんどでリハビリが進まなかった。家族の希望が強く、リハビリのできる施設に早めに入所したいとの事で、2025年10月しおんへ入所となる。

内 容

氏は以前、水産関係の仕事に従事されておりました。現在は石巻市のご自宅でご夫婦で生活されています。2024年3月に水痘带状疱疹ウイルス髄膜炎を発症し、アシクロビル脳炎、ウイルス性血管炎による限局性くも膜下出血と多発性脳梗塞、Elsberg症候群による神経因性膀胱、両側感音性難聴症を併発されました。発症後はフォーレによる排尿管理となり、移動は車椅子、歩行も手すりを必要とするなど、身体機能が大きく低下した状態でした。

しおん入所時は車椅子自走が可能でしたが、全身的な筋力低下、体幹失調、耐久性の低下が著明にみられました。歩行はサークル歩行器を使用して見守りで可能でしたが、40～60m程度で速度調整不良や身体の動揺がみられ、転倒リスクも高い状態でした。また、病識の低下から自身の身体機能以上の動作を行ってしまうこともありました。

入所からデイケアになってからは、ご本人から「趣味だったゴルフを再開したい」という希望が聞かれました。その思いを実現するため、体幹失調の改善、筋力・耐久性の向上を目標に、懸架装置を使用した歩行練習やサンドバッグ叩きなどを中心にリハビリを進めました。また、ゴルフをする際にフォーレを使用していることへの抵抗感から排泄管理にも取り組み、最終的にはフォーレを外し、自身で排泄管理が行えるまでに改善されました。

継続した取り組みにより身体機能は順調に向上し、模擬動作では支持物がない状態でゴルフスイングを行えるまでに改善されました。その後は、デイケアの休みの日にもゴルフへ出かけたり、身体機能向上のためにプールへ通ったりするなど、リハビリへの意識や主体性にも変化がみられました。ゴルフ再開後には「前のように飛ばないな」と話されながらも、楽しみながら意欲的に取り組まれていました。

氏は、発症による大きな機能低下を乗り越え、ご本人自身の努力によって、希望されていた「ゴルフを再開する」という目標を実現されました。さらに、目標達成後も身体機能の改善に向けて真摯に取り組む姿には、大きな輝きと前向きな力を感じます。

氏との出会いは、一人のセラピストとして非常に貴重で、かけがえのない経験となりました。大きな困難を乗り越え、自らの力で新たな一歩を踏み出されたことへの感謝と敬意を込め、ここに「キラキラ介護賞」への推薦をさせていただきます。